

2018年11月12日

報道関係各位

一般社団法人日本能率協会
産業振興センター

～農作物の鳥獣被害対策とジビエ利活用に焦点をあてた専門展示会～

第1回 鳥獣対策・ジビエ利活用展

一般社団法人日本能率協会（JMA、会長：中村正己）は、2018年11月20日（火）～22日（木）に、東京ビッグサイト（東京都江東区）において「**第1回鳥獣対策・ジビエ利活用展**」を初開催します。

鳥獣対策・ジビエ利活用展とは・・・

過疎化や高齢化による耕作放棄地の増加、狩猟者の減少などにより、鳥獣被害が深刻化しています。イノシシおよびシカの捕獲頭数は100万頭を超え、農作物被害額は約164億円^{*1}にのぼります。野生鳥獣による農作物被害は営農意欲の減退や離農の増加につながり、ひいては農山村地域の衰退を招く大きな問題です。

捕獲鳥獣は多くが廃棄処理されており、ジビエ(獣肉)利用は1割未満^{*2}にとどまっていますが、地域資源として活用し、地域振興に役立てようとする取り組みが始まっています。

鳥獣被害対策の推進と、捕獲鳥獣のジビエ利活用に焦点をあて、本展を開催いたします。

^{*1} 出典：農林水産省「全国の野生鳥獣による農作物被害状況について(平成29年度)」

^{*2} 出展：農林水産省「捕獲鳥獣のジビエ利用を巡る最近の状況(平成30年)」

【開催概要】

- ◆名称：第1回「鳥獣対策・ジビエ利活用展」
- ◆公式サイト：<http://www.jma.or.jp/ai/gm>
- ◆会期：2018年11月20日（火）～22日（木）10:00～17:00
- ◆会場：東京ビッグサイト 西2ホール
- ◆主催：一般社団法人日本能率協会
- ◆特別協力：一般社団法人日本ジビエ振興協会
- ◆入場料：無料 *ただし来場事前登録証もしくは招待状の持参が必要
- ◆予定規模：91社/121ブース *同時開催の「アグロ・イノベーション2018」含む

主な出展製品

鳥獣対策カメラ、忌避剤、捕獲檻、電気柵、わな、捕獲の遠隔監視システム、動物位置情報システム、捕獲個体の自動搬出機 など

セミナー

- 11月20日(火) 10:30～13:30 日本ジビエ振興協会/辻調理師専門学校/エコール辻東京/長野トヨタ自動車
国産ジビエ利活用の現状や認証制度、衛生管理と調理のポイント、ジビエカーの活用について、それぞれ第一人者が解説します。
- 11月21日(水) 11:50～12:50 葉山わな猟の会
神奈川県葉山町が取り組んでいる鳥獣対策について紹介します。
- 11月21日(水) 15:00～16:00 罨師 片桐邦雄氏
静岡県浜松市で割烹料理店を営み、罨猟の世界では有名な片桐邦雄氏が、「自然の恵みをいただく ～罨師が語るジビエの極意～」と題し、その信念やこだわりを語ります。
- 11月22日(木) 15:00～16:00 三生 和田晴美氏
農林水産省 農作物野生鳥獣被害対策アドバイザーであり、捕獲技術や解体の指導も行なっている株式会社三生(佐賀県鳥栖市)取締役の和田晴美氏が、「利活用に向けた捕獲技術 ～そのジビエもっとおいしくなるかも～」と題し、おいしく食べるための捕獲のコツを紹介します。

狩猟体験コーナー

シューティングシミュレーターを設置します。

実際の射撃に近く臨場感抜群のシミュレーターで、狩猟を体験していただきます。

捕獲個体を運ぶための特殊塗料を施した トヨタ ハイラックスサーフを展示します。



アメリカ軍や政府も認めた最強塗装カスタムの LINE-X(ラインエックス)を施した車両です。滑り止めや防音、耐衝撃・防キズ・防サビ・防水・塩害防止などの実用面はもちろん、見た目の良さでも注目を集めています。

そのほか、狩猟道具やアパレルも展示します。

【本件に関する問い合わせ先】

一般社団法人日本能率協会 産業振興センター内

鳥獣対策・ジビエ利活用展事務局 (担当：原田・中野・香川)

〒105-8522 東京都港区芝公園 3-1-22 TEL: 03-3434-1988 E-mail: ai-e@jma.or.jp

【プレス登録方法】

- ・テレビ、ラジオメディアのご取材は、事前に下記フォームよりご連絡願います。

<https://pro.form-mailer.jp/fms/a3a84ec3146693>

また、ご取材日当日は展示会場内プレスルームにお越しください。

- ・取材にあたっては、展示会場でのプレス登録が必要です。名刺を2枚ご用意いただき、来場当日は、プレスルームにてお手続きをお願いいたします。
- ・プレスルームのご案内:【場所】西1ホール2階 商談室(6)【時間】11/20(火)～11/22(木) 9:30～17:00

以上